

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 4 日作成)

|                              |   |                               |                               |
|------------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名                        | 耐衝撃性能評価小委員会   |                               | 主 査 名：濱本卓司<br>就任年月：2012 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 構造委員会<br>(応用力学運営委員会)  |                               | 委員長名：緑川光正<br>主 査 名：元結正次郎      |
| 設 置 期 間                      | 2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月   |                               |                               |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>衝突あるいは爆発に伴う衝撃荷重により引き起こされる構造物の動的挙動を知ることが、近年、重要な課題になっている。現在の構造設計体系において中心的位置を占める固定荷重や積載荷重のような「永久作用」と地震荷重や風荷重のような「変動作用」とは異なり、衝撃荷重はいったん作用すると甚大な被害を引き起こすものの、その発生確率がきわめて小さい「偶発作用」という第三の設計荷重である。本小委員会では、構造設計体系における衝撃荷重の位置づけを明確にしたうえで、建築物の耐衝撃性能に関する知見を整理し、設計ガイドラインを検討する。その成果として『建築物の耐衝撃設計の考え方』を出版する。</p> <p>2012 年度：『建築物の耐衝撃設計の考え方』の原稿作成及び学会大会 PD 開催。<br/>2013 年度：同書の原稿作成及び修正。<br/>2014 年度：同書の出版及び講習会の実施。<br/>2015 年度：建築物の耐衝撃設計に関する国際シンポジウムの開催。</p> |                               |                               |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | <p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：濱本卓司 (東京都市大学)<br/>幹事：中村尚弘 (竹中工務店)、西田明美 (日本原子力研究開発機構)<br/>委員：井元勝慶 (テラバイト)、片山雅英 (伊藤忠テクノソリューションズ)、世戸憲治 (北海学園大学名誉教授)、竹脇出 (京都大学)、橋英三郎 (大阪大学)、坪田張二 (前橋工科大学)、中山昭夫 (福山大学)、野中泰二郎 (京都大学名誉教授)、向井洋一 (神戸大学)、森川博司 (鹿島建設)</p>   |                               |                               |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           | <b>建築物の耐衝撃設計ガイドライン準備WG：</b><br>『建築物の耐衝撃設計の考え方』の作成にかかわる準備作業を行う。  |                               |                               |
| 2013 年度予算                    | 70,000 円  | ホームページ公開の有無：無<br>委員会 HP アドレス： |                               |

| 項 目  | 自己評価   |
|--|--|
| 委員会開催数   | 6 回 (年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は除く)                          |  |
| 講習会  |  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー等)<br>* 能力開発支援事業委員会<br>承認企画 |  |
| 大会研究集会   |  |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等                             |  |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係)                 | 1. 『建築物の耐衝撃設計の考え方』の原案を作成した。本年度中に応用力学運営委員会の査読及び修正を終え、次年度に構造委員会の査読を経て出版の予定である。 |
| 委員会活動の問題点<br>・課題                               |  |